

大豆「フクユタカA1号」の特性



写真1 草姿の様子

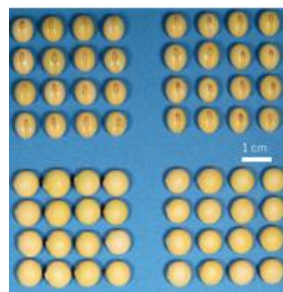


写真2 子実の様子

写真提供 農研機構作物研究部門

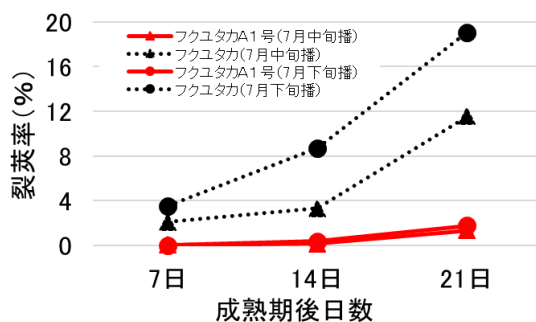


図 成熟期後の裂莢率の推移

問 研究のねらいは？

答 熊本県で生産されている大豆のほとんどを占める「フクユタカ」は、加工適性に優れ、需要が大きいです。しかし、莢が裂けやすく、適期に収穫できないと収量低下の大きな要因となっています。そこで、農研機構で育成され、「フクユタカ」に難裂莢性を持たせた「フクユタカA1号」を奨励品種決定調査に供試し、本県における栽培特性を明らかにしました。

問 主な特性は？

答 「フクユタカA1号」は、県内栽培において「フクユタカ」と比べて次のような特性を有することが明らかになりました。

- ① 開花期や成熟期はほぼ同等で、主茎長はやや長く、最下着莢節位高はほぼ同等です。
- ② 子実重はやや重く、タンパク質等の子実成分はほぼ同等です。
- ③ 成熟期後の莢の裂け(裂莢)が少なく、刈り遅れ等による収穫ロスの軽減により、実質的な収量の増加が期待できます。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 遅播きすると子実重の低下や青立ちの発生が増える傾向があるため、適期播種に努め、基本技術を励行してください。
 - ② 難裂莢性を備えていますが、成熟期後の長期間のほ場放置はしわ粒の増加等による品質低下を招くため、可能な限り適期収穫に努めてください。